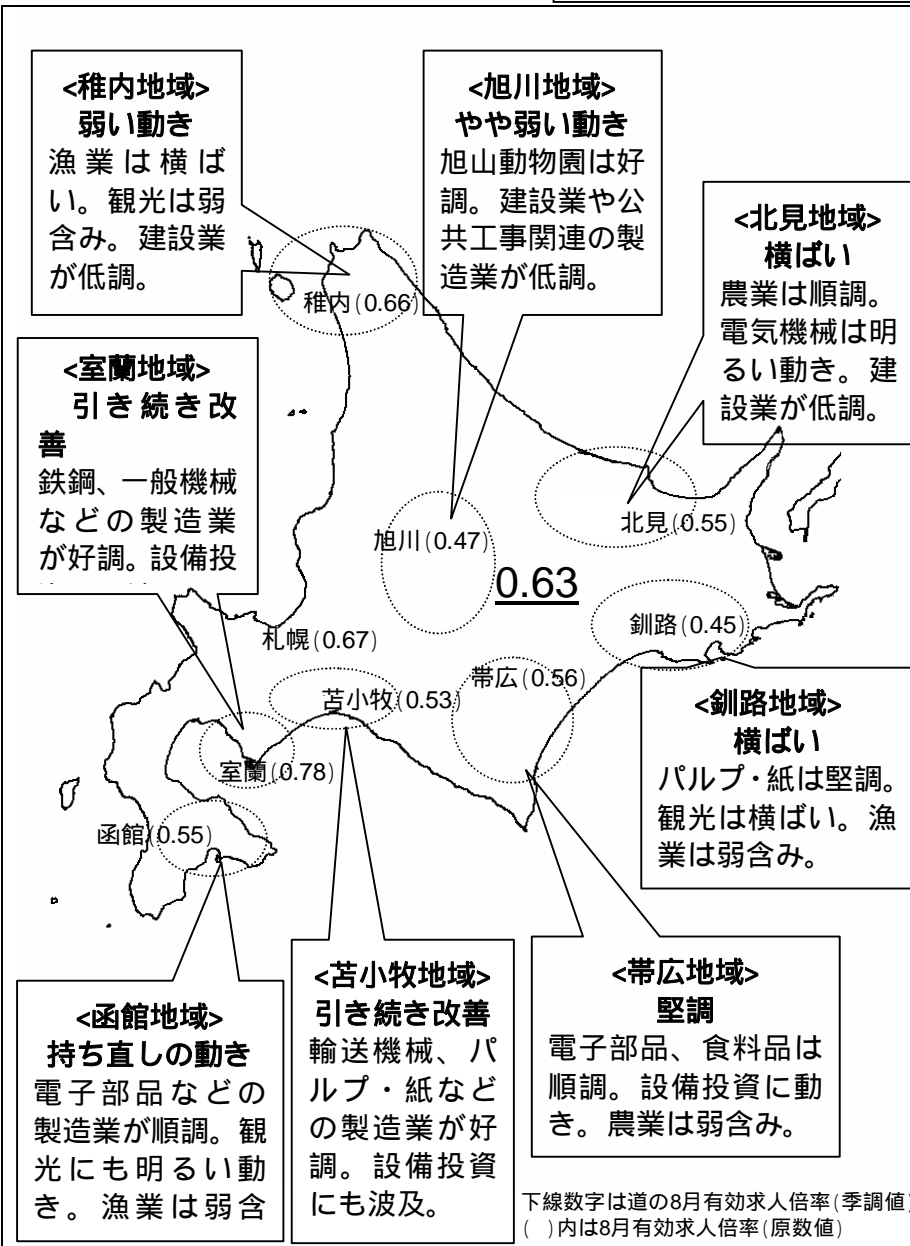


第18回地域経済産業調査結果の概要（地域別）

北海道経済産業局管内の経済動向



北海道地域の経済は、緩やかに改善している。

1. 全体の動向

企業の業況は緩やかに持ち直し。生産は横ばいとなっているものの、設備投資は増加、個人消費は持ち直し。雇用は厳しさが残るものの改善が続いているほか、観光は改善傾向。

全体として引き続き緩やかに改善。

2. 個別の動向

生産 ~ 横ばいとなっている。~

鉄鋼、輸送機械が高水準を維持しているほか、パルプ・紙は堅調に推移。窯業・土石、金属製品等に弱い動き。

設備投資 ~ 製造業、非製造業ともに増加している。~

輸送機械、食料品、電子部品・デバイス、放送、小売、リサイクルなどに動き。

雇用情勢 ~ 厳しさが残るものの、改善が続いている。~

食料品、一般機械、情報サービス、小売などで積極的な雇用確保の動き。

個人消費 ~ 持ち直している。~

スーパー、コンビニが堅調なほか、家電、軽乗用車販売も好調。

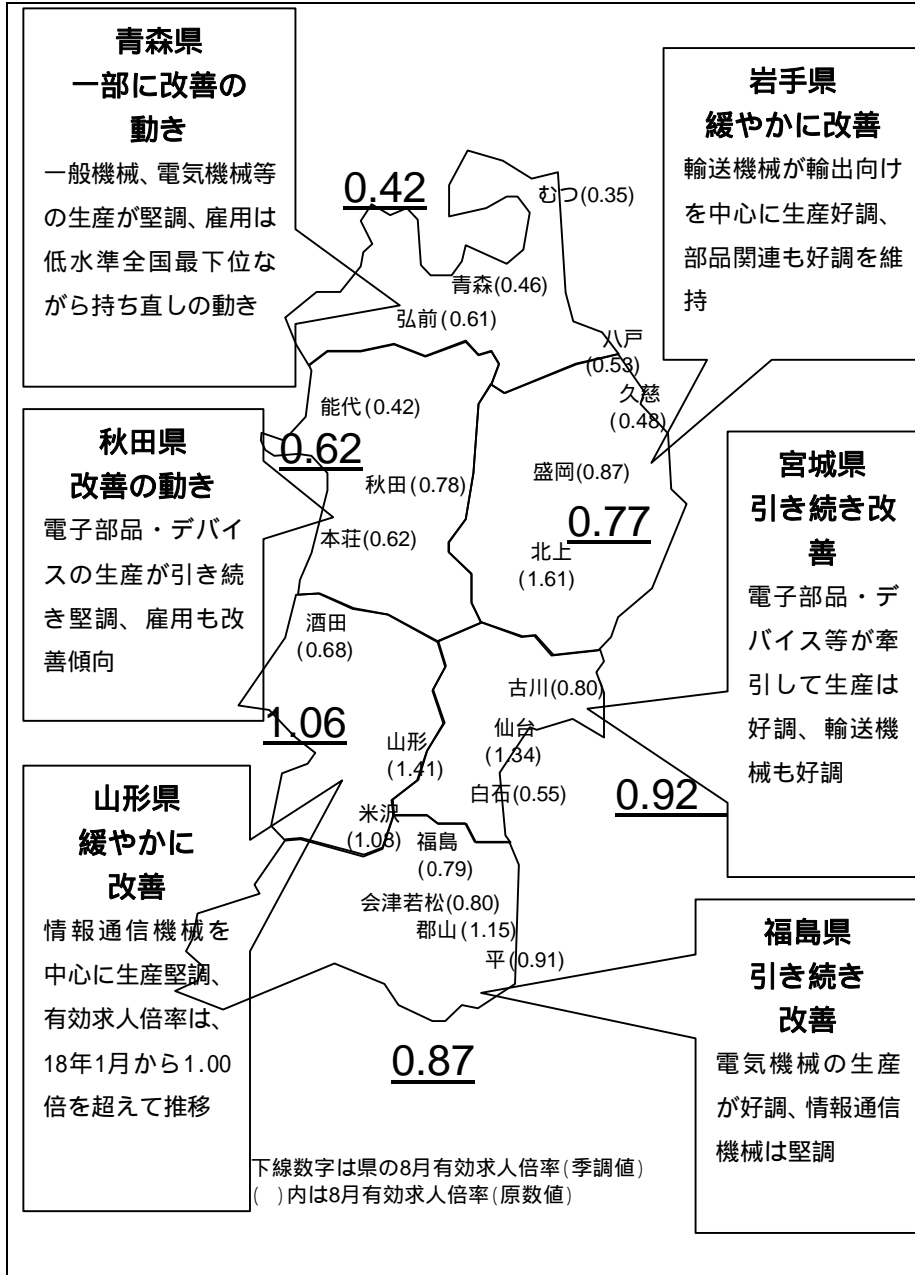
3. 地域経済のトピックス

原油問題は、広範囲の企業の収益に影響。

旭山動物園及び知床観光が牽引し、来道客数が増加。

プロ野球日本ハムの経済効果は 220 億円（日本シリーズ開催前の試算）。さっぽろ雪まつりや YOSAKOI ソーラン祭りに匹敵。

東北経済産業局管内の経済動向



東北地域の経済は、緩やかに改善している。

1. 全体の動向

業況は引き続き改善の動き。生産は緩やかながら上昇傾向。設備投資は引き続き積極的な動き。雇用は地域差あるものの緩やかな改善の動き。個人消費は一部に弱い動きがあるものの持ち直しの動き。
全体として引き続き緩やかに改善。

2. 個別の動向

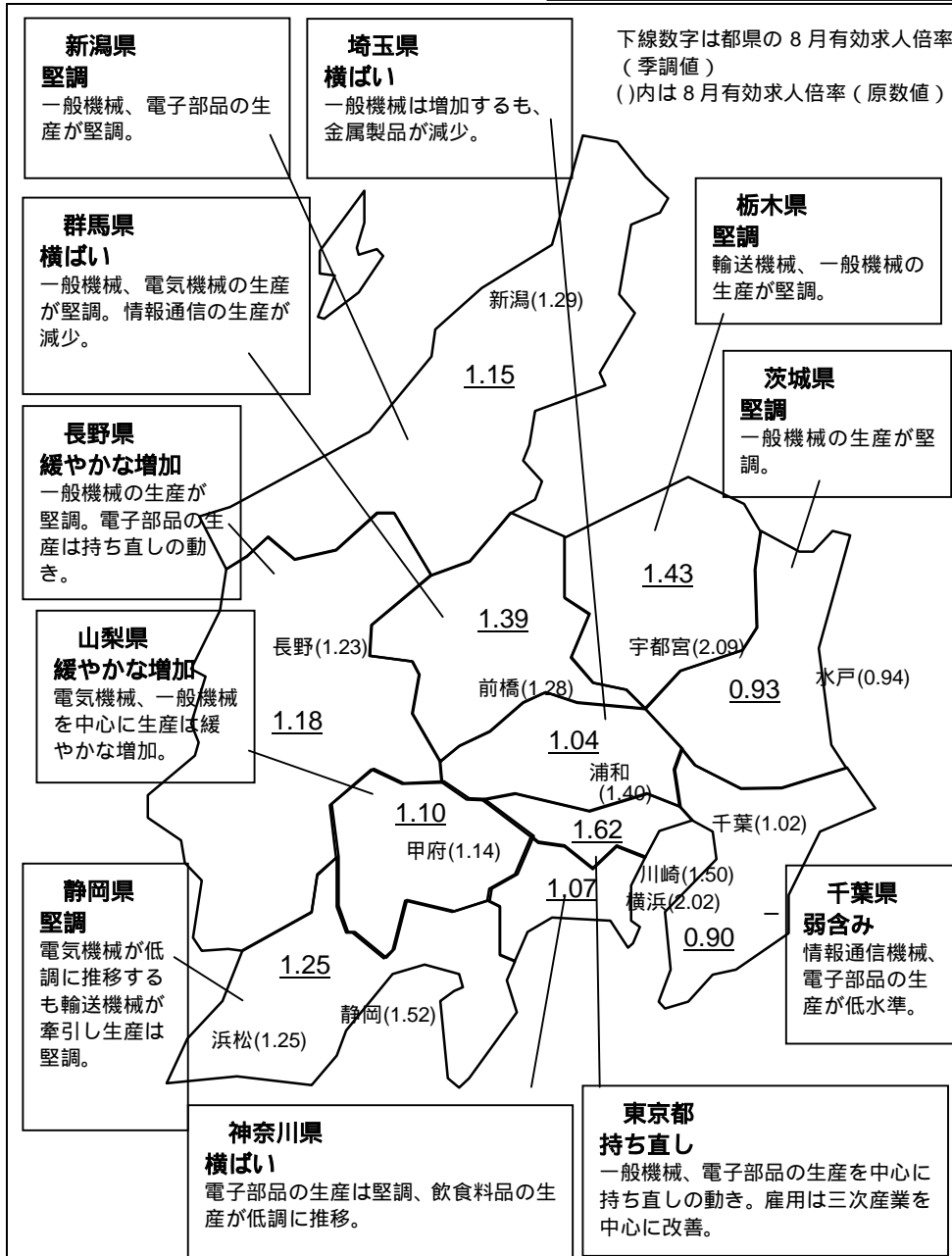
生産 ~ 緩やかながら上昇傾向で推移。~
輸送機械、電子部品・デバイス、一般機械を中心に堅調に推移。
設備投資 ~ 引き続き積極的な動きがみられる。~
輸送機械、電子部品・デバイス、一般機械、パルプ・紙、小売業等で積極的な投資の動き。
雇用情勢 ~ 地域差があるものの緩やかな改善の動き。~
有効求人倍率は0.76倍で、2ヶ月連続で低下も、前年の水準を上回って推移。新規求人数も増加傾向。
南3県(0.94倍)と北3県(0.58倍)で地域差あり。
個人消費 ~ 一部に弱い動きがあるものの持ち直しの動き。~

大型小売店販売額等が伸び悩んでいる等一部に弱い動きがあるものの、高額商品の動きは堅調。秋物衣料にも動き。仙台市を中心とした好調さも継続している等持ち直しの動き。

3. 地域経済のトピックス

原油高により製造業・非製造業で影響を受けている企業多数。製品価格転嫁済みは一部のみ、多くは困難な状況。
観光は、8月の東北の夏祭りが前年を上回る人出であったことなど、概ね好調に推移。

関東経済産業局管内の経済動向



関東地域の経済は、改善している。

1. 全体の動向

業況は改善を続けており、生産も上昇傾向、設備投資は引き続き増加しているとともに雇用は改善、個人消費にやや弱い動きがみられるものの、全体としてみれば改善。

2. 個別の動向

生産 ~ 緩やかながら上昇傾向で推移している。~

電子部品、一般機械が緩やかながら上昇傾向。輸送機械は高水準で推移。

設備投資 ~ 増加している。~

電子部品、輸送機械、鉄鋼、化学で能力増強や新製品・高付加価値対応への積極的な投資の動き。

小売業において、新規出店や店舗改装等への積極的な投資の動き。

雇用情勢 ~ 引き続き改善が続いている。~

新規求人数は、パートは横ばいのものの、一般は増加。来春の新規採用は拡大の見込み。

個人消費 ~ やや弱い動きがみられる。~

コンビニ、家電が堅調に推移しているものの、大型小売店、乗用車販売が伸び悩んだことから全体としてやや弱い動き。

3. 地域経済のトピックス

原油問題は、総じてみれば深刻な影響は生じていない。

諏訪等では長雨や台風の影響で一時落ち込んだものの正月に向けて回復の見通し。軽井沢等では海外客の集客を積極的に実施。工場立地は、首都圏周辺部を中心に活発な立地が行われている一方、神奈川で研究施設へのシフト化が進展。

首都圏等からの遠隔地においては、十分には景気回復が波及していない地域有。

つくばエクスプレス沿線において住宅・商業施設の開発が活発。

中部経済産業局(東海地域)管内の経済動向

東海地域の経済は、改善している。

1. 全体の動向

生産は増加傾向となっており、設備投資は幅広い業種で増加、雇用も需給が引き締まっており、一部では原油・資源価格高騰による収益圧迫も見られるが、全体としては引き続き改善。

2. 個別の動向

生産 ~ 増加傾向となっている。~

一般機械、電子部品・デバイスが増加、主力の輸送機械も高水準で推移しているなど、増加傾向。

設備投資 ~ 増加している。~

電子部品・デバイスでの大型投資や自動車関連での高水準投資が続いており、これらの波及から、非製造業も含め幅広い業種で増加。

雇用情勢 ~ 需給が引き締まっている。~

高水準の生産等を背景に労働需要が高まり、有効求人倍率や完全失業率が他地域と比べ良好な水準で推移。また、労働力需給の引き締めにより幅広い業種で人手不足感が広がっており、企業が望む人材の採用が一層困難。

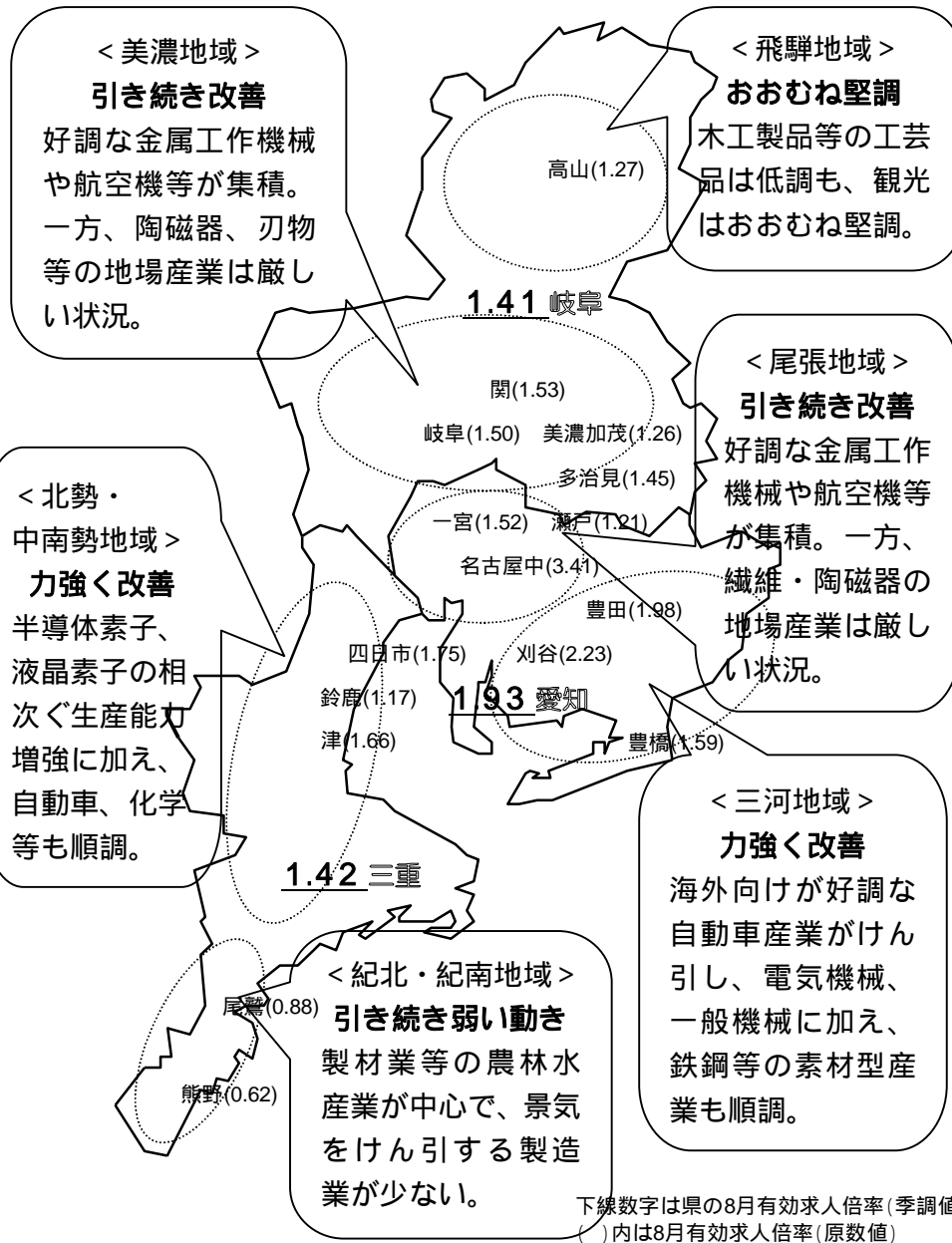
個人消費 ~ 持ち直している。~

百貨店や家電販売が堅調に推移しており、スーパーも持ち直すなど、全体としては持ち直し。

3. 地域経済のトピックス

原油・石油製品の価格上昇については、全体的には深刻な影響は見られないものの、中小企業や一部の業種では、十分な価格転嫁ができず、収益を圧迫。

資源価格の高騰については、自動車部品などの機械工業やファイナセラムックス、金属製品などで収益に影響。



中部経済産業局(北陸地域)管内の経済動向

<能都地域>
産業の集積密度が低。

能都(0.45)

<三国地域>
郊外型の大型小売店舗
の立地が多。

三国(1.60)

1.42

<福井県>

緩やかに増加

電子部品・デバイス好調も、織
維縮小傾向、上昇度合い緩やか。
鉱工業生産指数：102.8

1.22

<富山県>

堅調

金属製品低調も、電気
機械、一般機械が好
調、安定した動き。
鉱工業生産指数：111.2

<石川県>

好調

電気機械、一般機械が
好調、高水準を維持。
鉱工業生産指数：144.9

1.34

下線数字は県の8月有効求人倍率(季調値)
()内は8月有効求人倍率(原数値)

北陸地域の経済は、改善している。

1. 全体の動向

生産が上昇傾向、設備投資が増加し、個人消費に持ち直しの動き、観光も回復しつつあり、全体として改善。今後も改善基調。

製造業は、一部厳しさが残るが、全体として改善。非製造業は、建設業での民需を中心とした回復の動きや小売業での購買意欲上昇から、全体として持ち直しの動き。

2. 個別の動向

生産 ~ 上昇傾向となっている。~

繊維や金属製品は低位ながら持ち直しの動き。一般機械、電子部品・デバイス、化学工業などは引き続き好調を維持。

設備投資 ~ 増加している。~

一般機械、電子部品・デバイスなどの自動車、IT関連企業では、活発な設備投資が続き、小売業も、新規出店やリニューアルの動き。

雇用情勢 ~ 改善が続いている。~

人手不足を感じている企業が多くなっており、派遣社員の活用に加え、新規・中途採用を拡大する企業が増加。

個人消費 ~ 持ち直しの動きとなっている。~

購買意欲の上昇がみられ、百貨店やスーパーなどで一部高額商品や高付加価値製品が好調。

3. 地域経済のトピックス

原油価格高騰による影響は、総じて深刻化はしていないものの、アルミ鋼材等原材料価格高騰による影響が顕在化しており、製品価格への転嫁に踏み切らざるを得ない企業が散見。

県外資本による再生旅館が好調。一部観光地で海外観光客が増加。

近畿経済産業局管内の経済動向

兵庫県
上昇傾向で推移
一般機械、鉄鋼などが好調を維持。

福井県
緩やかに増加
電子部品・デバイス、一般機械などが好調。

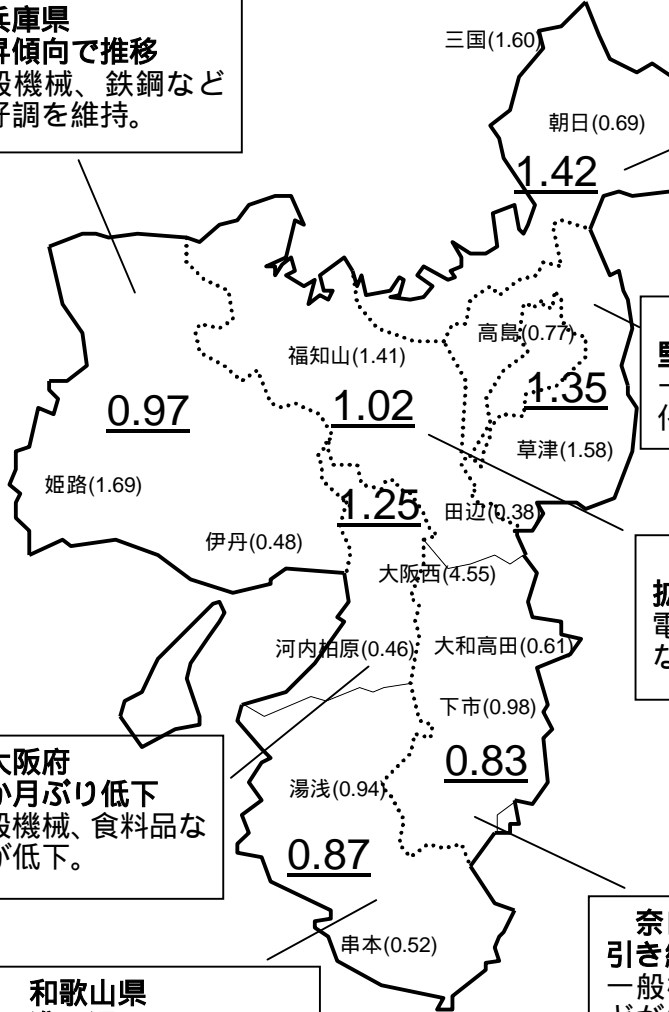
滋賀県
堅調に推移
一般機械、輸送機械、化学などに伸び。

京都府
拡大傾向が継続
電気機械、電子部品などが高い伸び。

大阪府
2か月ぶり低下
一般機械、食料品などが低下。

和歌山県
一進一退
鉄鋼、金属製品、電気機械などが低下。

奈良県
引き続き弱含み
一般機械、非鉄金属などが低下。



下線数字は府県の8月有効求人倍率(季調値)
()内は8月有効求人倍率(原数値)

近畿地域の経済は、改善している。

1. 全体の動向

輸出が好調に推移、設備投資は増加、個人消費も緩やかに増加し、また、生産は上昇傾向にあるなど、引き続き改善。

業況は、引き続き改善。製造業は、引き続き改善。非製造業は、小売業、サービス業とも緩やかに改善。

2. 個別の動向

生産 ~ 上昇傾向にある。~

増加基調の設備投資や好調な輸出を背景に引き続き改善。

設備投資 ~ 積極的な企業が多く、増加している。~

製造業では、積極的な能力増強投資の動きが継続。

非製造業では、発電所の建設や百貨店の建て替え・増床、大型複合商業施設の新規立地など、引き続き積極的。

雇用情勢 ~ 緩やかに改善している。~

一部に必要な人材の採用が困難となるなど、緩やかに改善。

個人消費 ~ 全体としては緩やかに増加している。~

デジタル AV 機器、高機能白物家電等が好調に推移するなど、全体としては緩やかに増加。

3. 地域経済のトピックス

原油価格上昇は、ナフサなどの石油製品から合成樹脂等の石油派生製品に連鎖的な価格上昇を引き起こしているが、価格転嫁は依然困難な状況が続いている。

外国人観光客が増加。京都などの観光地も総じて好調である。

中国経済産業局管内の経済動向

<島根県> 横ばい

農機などの需要が減少しつつある一般機械で弱い動きがみられたものの、マンション需要が旺盛な鉄骨が伸び、金属製品などで生産が増加。観光では、今年春の観光キャンペーン効果により、松江城や玉造温泉など好調。

○隠岐の島
(0.37)

<鳥取県> やや弱い動き

製造業は、主要産業の食料品・たばこなどが堅調だったものの、情報通信が低調な動き。

鳥取(0.90)
0.79
郡家(0.35)

出雲(1.07)

0.86

1.35
可部(0.46)

広島(1.64)

1.39
津山(0.84)

玉野(1.68)

1.10

岩国(1.41)
大島(0.77)

<広島県> 引き続き改善

製造業は、一般機械では大型出荷の反動減。鉄鋼でも断水事故が影響したものの、自動車や造船は高水準。宮島や大和ミュージアムなど、観光は好調。

<岡山県> 引き続き改善

主要産業の化学が原油価格高騰で一部製品に生産調整の動きがあるものの、引き続き自動車、家電向けに好調な動き。有効求人倍率は全国で7位の高水準。

<山口県> 引き続き改善

一般機械や化学機械で生産が増加。雇用も、有効求人倍率が4か月ぶりに1.1倍台に改善。

中国地域の経済は、緩やかに改善している。

1. 全体の動向

積極的な設備投資や堅調な輸出、生産などを背景に、業況や雇用情勢は改善傾向にあり、個人消費にも持ち直しの動きがみられ、全体として緩やかに改善。先行きは、全体として現在の状況が続く見込み。また、引き続き中小企業を中心に原油・原材料高の影響が懸念。

2. 個別の動向

生産 ~ 生産は堅調に推移している。 ~

生産は、自動車、造船など好調な業種を背景に、鉄鋼や化学なども高水準を維持。また、デジタル家電向けに電子・デバイスも高水準を維持。

設備投資 ~ 引き続き積極的な投資の動きがみられる。 ~

製造業では、一般機械や情報通信、電子・デバイス等で増産や新製品対応のため、設備の新・増設。非製造業でも、情報通信業で第3世代携帯の基地局増設、小売業で新規出店の動き。

雇用情勢 ~ 引き続き改善傾向にある。 ~

有効求人倍率は、鳥取、島根が低下しているものの、山陽3県で1倍を超えて全国平均を上回り、引き続き改善がみられるが、地域間格差は拡大傾向。

個人消費 ~ 持ち直しの動きとなっている。 ~

大型小売店では、主力の衣料品や飲食料品を中心に好調。家電量販店でもデジタル家電や高機能な白物家電が好調に推移するなど、全体として持ち直しの動き。

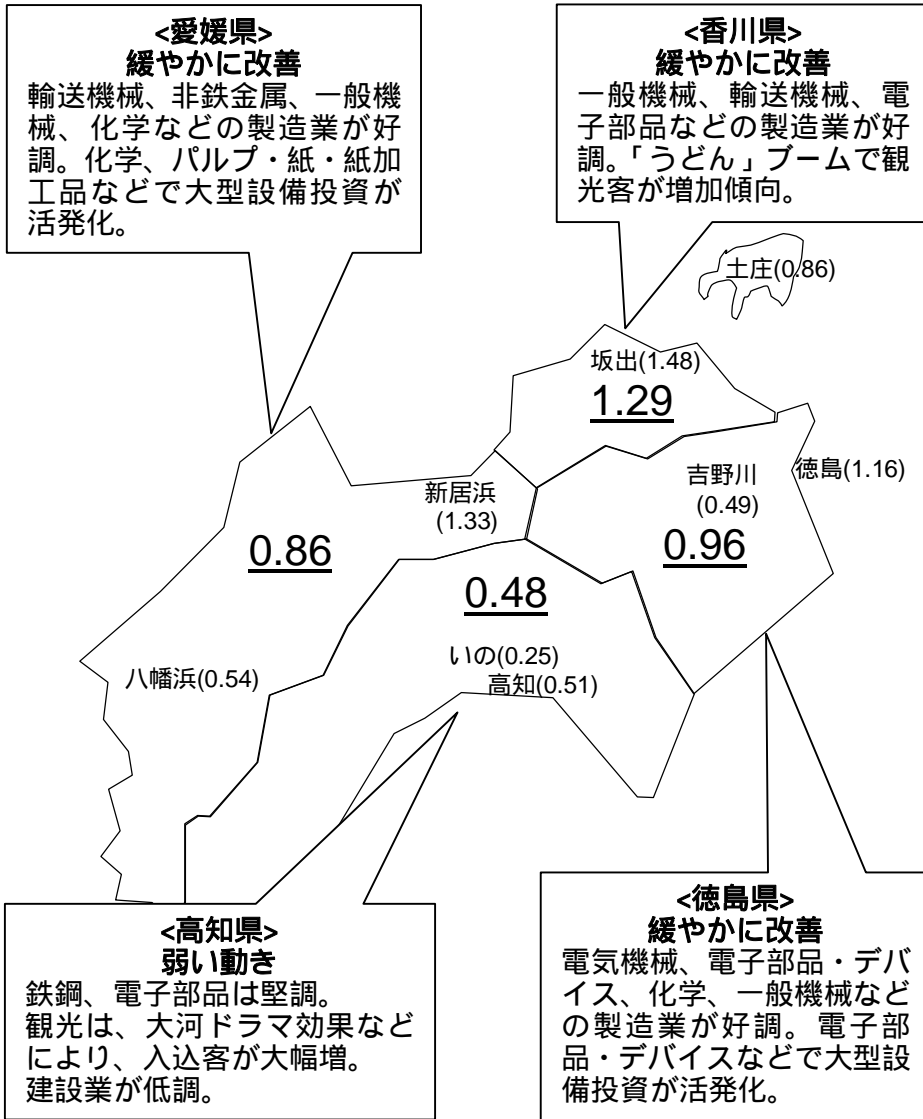
3. 地域経済のトピックス

原油価格上昇の影響は、経営へ深刻な影響を与えるには至っていないものの、原油価格高騰分の価格への転嫁が困難になる中、中小企業や非製造業を中心に収益への影響が拡大。

管内の主要観光地は、地域によりばらつきがあるものの、全般的に観光客は増加傾向。

下線数字は県の8月有効求人倍率(季調値)
()内は8月有効求人倍率(原数値)

四国経済産業局管内の経済動向



下線数字は県の8月有効求人倍率(季調値)
()内は8月有効求人倍率(原数値)

四国地域の経済は、緩やかに改善している。

1. 全体の動向

生産は緩やかに上昇、設備投資は増加傾向、個人消費は一部に弱い動きがあるものの緩やかに持ち直し、雇用も概ね改善傾向にあり、全体として緩やかに改善。

2. 個別の動向

生産 ~ 緩やかな上昇傾向で推移している。~

輸送機械、電気機械、化学などが好調に推移。電子部品・デバイス、一般機械なども堅調に推移。

設備投資 ~ 製造業を中心に増加傾向となっている。~

電子部品・デバイス、化学、非鉄金属でデジタル関連部材等に対する大型投資が継続。

雇用情勢 ~ 概ね改善傾向にある。~

一部地域では、依然厳しい状況が続いているものの、新規求人数が増加傾向にあることから、概ね改善。

個人消費 ~ 一部に弱い動きがみられるものの

緩やかな持ち直しの動きとなっている。~

家電販売、旅行、コンビニ、軽乗用車販売は好調。大型小売店販売は低調。

3. 地域経済のトピックス

原油・原材料価格の上昇は、製造業では、約9割の企業で影響が生じており、中小企業で影響が拡大。

映画「UDON」(8月26日封切り)を契機として讃岐うどんの人気が再燃。香川県内のうどん店には大勢の県外客が押しかけ、ロケセットも新たな観光名所となるなど、観光客誘致に貢献。

九州経済産業局管内の経済動向

九州地域の経済は、緩やかに改善している。

1. 全体の動向

輸送機械や情報通信機械を中心に、生産や設備投資が堅調であり、雇用も改善傾向が広がるなど、全体としては緩やかに改善。

2. 個別の動向

生産 ~ 堅調に推移。 ~

自動車などの輸送機械、デジカメなどの情報通信機械が輸出向けを中心に堅調に推移し、過去最高水準を維持。

設備投資 ~ 製造業を中心に、高水準にある。 ~

自動車関連に加え、電子・デバイス関連で新規立地、能力増強投資が活発。

雇用情勢 ~ 引き続き改善傾向にある。 ~

大分県、福岡県が、バブル期の有効求人倍率の水準に近づく一方で、長崎県、鹿児島県では厳しさが継続。

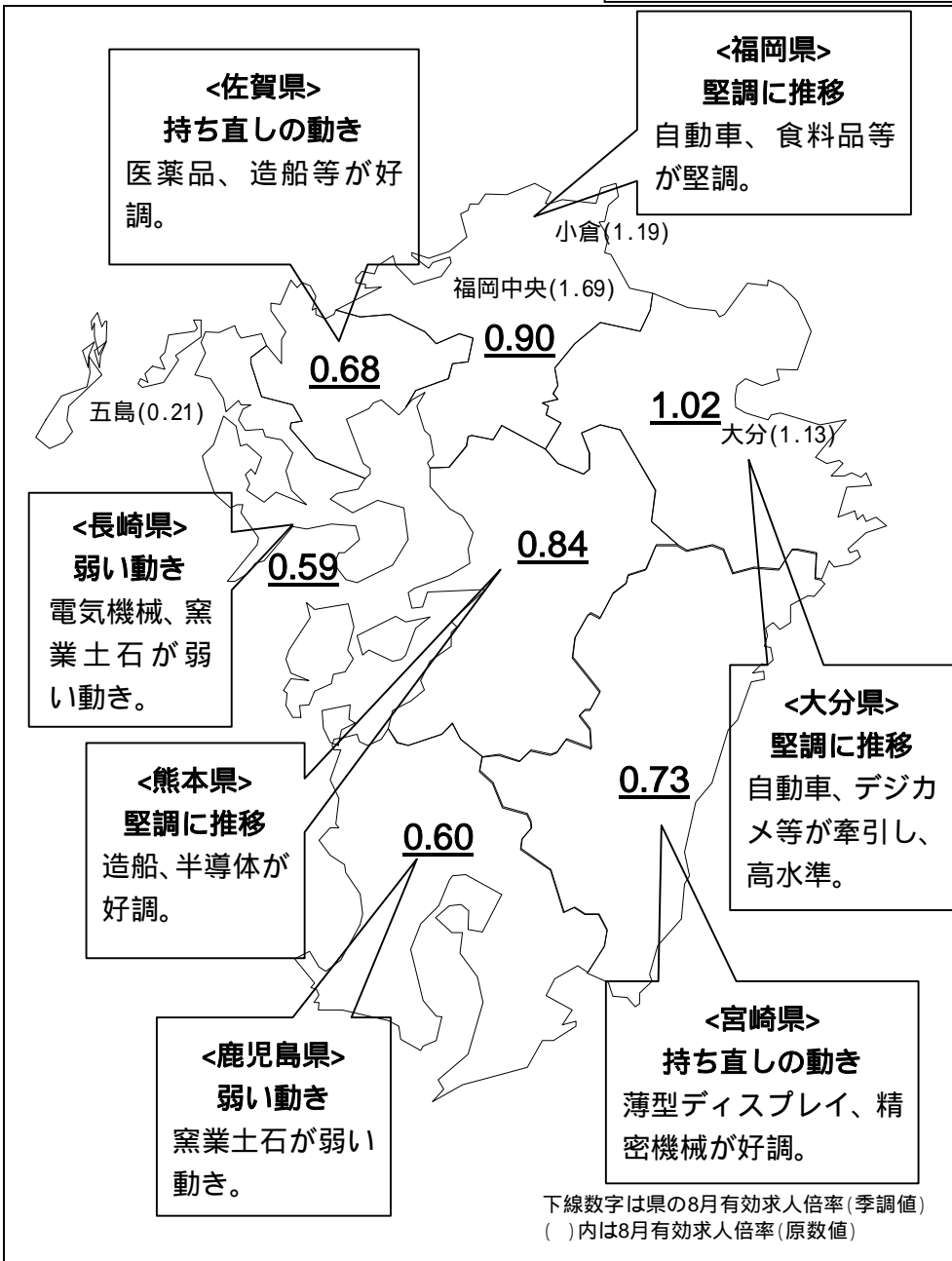
個人消費 ~ 弱いながらも持ち直しの動き。 ~

全般的に弱い動きが続いているものの、大型小売店販売、家電販売に持ち直しの動きもあり。

3. 地域経済のトピックス

原油高の影響が、中小企業の製造業を中心に広がっており、収益の悪化懸念。

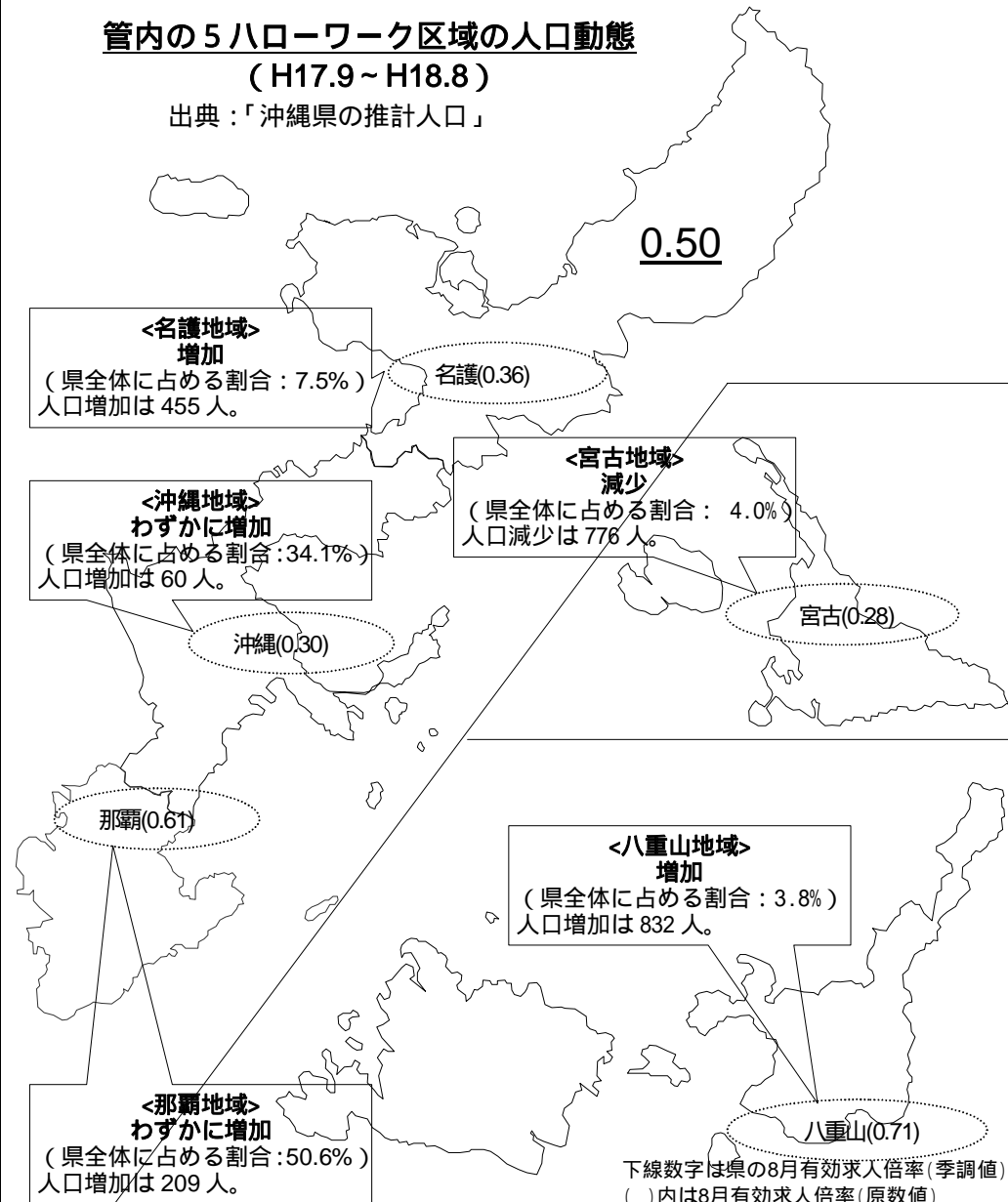
自動車（トヨタ九州、約1,000億円；福岡）情報通信機器（大分キャノン、約1,000億円；大分）液晶用フィルム（富士フィルム九州、約1,100億円；熊本）などの大規模な新規立地や能力増強投資の実施により、先進的な製造拠点化が進展。



沖縄経済産業部管内の経済動向

管内の5ハローワーク区域の人口動態 (H17.9～H18.8)

出典：「沖縄県の推計人口」



沖縄地域の経済は、改善している。

1. 全体の動向

観光が引き続き力強くリードしており、個人消費が堅調に推移しているほか、生産が持ち直しており、全体として改善。

地域の特性としては、有効求人倍率が高い八重山地域は、県内外からの転入者が多い。

2. 個別の動向

生産 ～ 持ち直している。～

窯業・土石は民間工事により堅調に推移し、食料品は持ち直し。石油製品は低水準で推移し、金属製品は減少傾向が継続。

設備投資 ～ 製造業、非製造業ともに横這い。～

製造業では、新商品開発に伴う食料品や鉄鋼で動き。

非製造業では、情報や集客施設に対する投資で小売に動き。

好調な観光等により、運輸や飲食店・宿泊で前年度を上回ることから、全体で前年度を上回る見通し。

雇用情勢 ～ 緩やかに改善している。～

有効求人倍率は、新規求人等の増加から 2 ヶ月連続で 0.50 倍。完全失業率は 7% 台に低下。

個人消費 ～ 堅調に推移している。～

百貨店、スーパーは堅調。軽乗用車、家電は好調。

3. 地域経済のトピックス

原油価格の影響は、業種間でばらつきがみられる。

1月～8月までの入域観光客数は、対前年比 1.6% 増と好調に推移。観光客の増加から、観光関連投資や新車販売台数に好影響。その結果、観光関連は引き続き沖縄地域の経済を力強くリード。

